

もくじ

第 1 章 運命のひとくち 4

第 2 章 めざめよ田んぼ 13

第 3 章 初めての田植え 20

第 4 章 ミニ田んぼ 29

第 5 章 田んぼの学校 36

第 6 章 新米の味 48

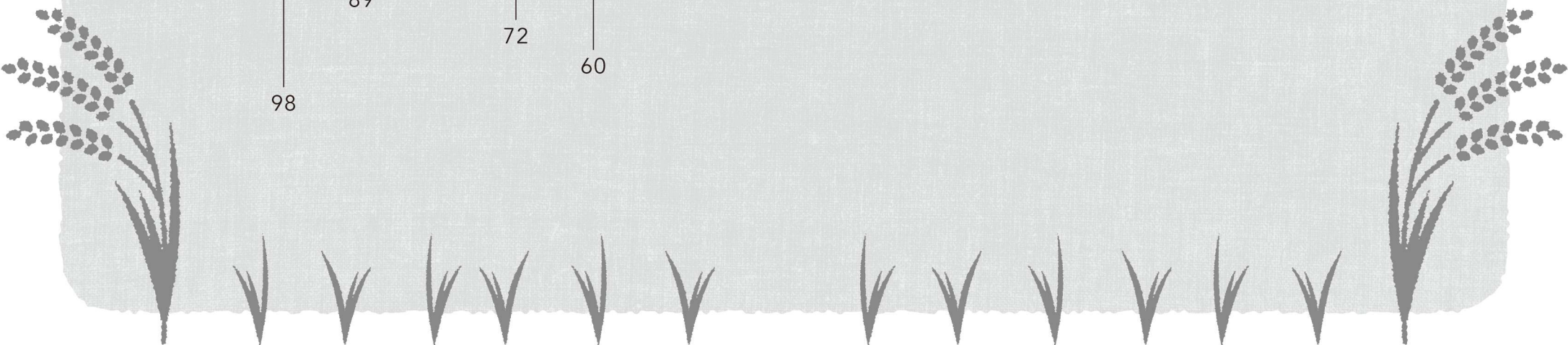
第 7 章 2年目のリベンジ計画 60

第 8 章 虫の命と稲のくらし 72

第 9 章 自然のちから 83

第 10 章 最高のほめことば 89

第 11 章 ひとつぶのタネのゆくえ 98



苗は、葉が半分ほど水面より上に見えるように植えるのがコツ。むずかしい



苗は3本ぐらいひとかたまりにして植える。だけど足が……ぬけない！

「よっしゃ。まっすぐ植えられたぞ！
自信まんまんで、後ろをふり返ります。
ところが見えたのは、間隔がまちまちなら、列もくねくねと曲がっている苗でした。
友だちといっしょに楽しく始めた田植えですが、1時間もたつとさすがに、だれもがつかれてきました。田んぼ全体からすると、やっと6分の1ぐらい植え終えただけです。
「ゆうちゃん、手で植えるのはそれくらいでええやろ。あとは田植え機にまかせようや」
残りの苗は、中井さんが植えてくれることになりました。」

刈り取ったあとは……

1 乾燥

ゆうちやん米は「はざかけ」の天日干しにする。



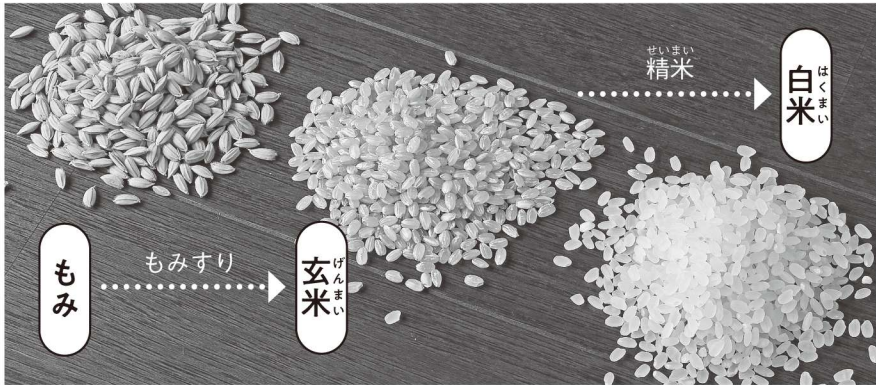
2 脱穀

稲の穂先から「もみ」だけを取る。



3 もみすり・精米

「もみ」からもみがらを取って、玄米・白米にする。



くれました。お米の量に関係なく、感謝の気持ちでいっぱいになりました。

1カ月ほどたった10月16日。「はざかけ」をしてちょうどよい水分量になった米の「脱穀」と「もみすり・精米」をしました。近くの農家が機械を貸してくれたおかげで、あっという間に「白米」になりました。重さをはかると、45キロでした。300キロが目標だったので、6分の1もありません。

「こんなに少ないんか。あーあ。借金まみれや」
照れくさい気持ちもあってつい、そんなことばが口をつきました。肥料を買うのに足りなかったお金をお母さんに借りていて、取れた米を売って返すつもりでいたからです。